

# 歴史探訪

## クラブ! 其の117

History Inquiry Club

文化財課 ☎23局 3635  
FAX 22局 3811

### まほろしの白谷トンネル

ある日、田原市消防本部から白谷町方面に車を走らせ、田原鉾山を通り過ぎようとしたところ、北方向に石碑があることに気づきました。石碑は、いぶん立派なものですが、見つけにくい場所なので人目に触れることがなかったのです。

碑を観察すると、表面にはかつての愛知県知事桑原幹根による題字が彫られ、裏面にはこの碑が建てられた経緯が記されていました。それによると、昭和27年、姫島港を開発す



●開通時の白谷トンネル 写真提供:田原鉾産(株)

るため道路を計画し、国や県に働きかけて昭和35年5月28日、白谷トンネルが完成したというものです。

今では、滑らかな坂道で、気軽に通行ができる道路となっていますが、もともとは車では通行できない厳しい峠道でした。車両が通行するためには、いぶん曲がりくねった道を造らなければならず、距離も長くカーブも多く危険です。ましてや、これから自動車による輸送などを活発にしようということになれば、解決するためにはトンネルを造らざるを得ませんでした。山間部でもない渥美半島にトンネルができたのは、このような事情によるものでした。

このトンネルの完成は、産業振興という期待と、戦後の土木技術の発達を示す、当時の住民にとって大きな出来事であったに違いありません。

ここに、開通当時の写真があります。舗装もない道路、そして参列者の服装や車の形が時代を感じさせます。完成したトンネルは、全長229m、幅員5.5m、大型トラックも通行可能なものでした。完成前は、田原中学校に通う白谷町の生徒たちや、白谷にあった西部小学校(現在は童浦小学校に統合)に勤務する先生方は、100m級の山を越え毎日学校に通っていたのですが、トンネルによって便利になりました。しかし、石灰岩の性質上、漏水や、落石などの危険もあったようです。トンネルは、時折通行禁止になって、生徒たちは以前の暗い峠道を泣く泣く帰ったこともあるそうです。

このように、住民の産業、暮らしに関わりを持った白谷トンネルも、昭和46年、石灰岩の採掘範囲の拡大や、危険との判断で、11年半にわたる役割を終えました。トンネルの代わりには、開削工法によりさらに安全で快適な新しい道路(現道路より

西側)ができました。現在、この地にトンネルがあったということなど思いませんが、田原市の産業発展のひとつの事業として、私たちは記憶にとどめておく必要があるでしょう。その生き証人がこの石碑なのです。

(増山)

※前号の豊川用水の通水について、昭和43年5月に全面通水しました。ここに補足させていただきます。



●ひっそりとたたずむ、白谷トンネルの完成記念の石碑

今月の「表紙」  
▼ガラス温室に入ると、そこはまるでお花畑。辺り一面に、甘いシクラメンの香りがただよっていました。出荷する花をトレイに手際よく載せていく様子は、昭和初期の花摘みを思わせます。その昔、露地の花卉栽培で名を馳せた渥美半島。形は変われど、渥美半島のお花畑は受け継がれているんですね。(O)

【表紙の写真】シクラメンの出荷風景(堀切町)